



桜

丹波篠山市
ビジョン

サクラ（桜）は、丹波篠山市の市木として市民に愛され、春には市民が大切にしてきたサクラを楽しむため、たくさんの観光客が丹波篠山市に来訪されます。

しかし、市内に約1万本あるサクラは、植え付けから時間が経過し、高木化して手入れが行き届かないもの、老木化したもの、てんぐ巣病に罹患したものなど、その状態は良好なものばかりではありません。

今後もサクラを市民が愛し、楽しみ、見守り続けることで、美しく咲くサクラを未来につなげていくためには、サクラの計画的な維持管理や、必要に応じた更新（植え替え）が必要です。

「丹波篠山市桜ビジョン」では、市木サクラを未来につないでいくため、サクラをきっかけとしたまちづくりの基本理念や目指す将来像、戦略を定め、それらに基づく取り組みを推進していきます。



篠山城跡



国道173号線沿い



篠山川沿い

丹波篠山市内の桜の名所（一例）



並木道中央公園



宮田川沿い



大山川沿い

基本理念

「市民みんなで作るオンリーワンのサクラの里」

サクラは日本を代表する木であり、日本中で美しいサクラを愛でることができます。また、サクラで地域おこしをしているところは全国にたくさんありますが、丹波篠山市では子どもからお年寄りまで市民みんなが、多様なサクラを愛し、楽しみ、見守り、関わり続け、各々が丹波篠山をオンリーワンのサクラの里だと思えるように取り組んでいきます。

目指す将来像

- てきちてきおう
- ① “適地適桜※”のサクラが未来に継承されるまち
 - ② サクラを地域の活力とし、
みんなが生き生きワクワクと過ごすまち
 - ③ サクラを見守る人材があふれ、活躍するまち

※ 適した場所に適した種類のサクラを植樹するという意味の造語。



ビジョンの対象



計画期間

令和7年度～令和16年度（10年間）

サクラの成長に要する期間は数十年以上と長く、このビジョンで掲げる理念や将来像実現のためにも同じく長い期間を要します。そのため、このビジョンでは中長期的な視点でサクラの里づくりを進めていくため、50年、100年先を見据えたものとして「理念」、「目指す将来像」を掲げつつ、その目標実現のための短期的な取組方針「戦略」については、10年間で区切り実施していきます。

市木サクラをめぐる課題

サクラが元気に咲き続けるには、一定の対処が必要な課題があります。とりわけ人との共生や病害虫対策として、剪定作業は不可欠です。よく知られた諺（ことわざ）に「桜切るバカ、梅切らぬバカ」というものがありますが、これは絶対にサクラの枝は切ってはいけない、ということではありません。適切な切り方をしないと枯れたり、弱ったりするおそれがある、という意味で言われています。

市木サクラの未来への継承は、植樹して成し遂げられるものではありません。植樹後、数十年、数百年にわたってみんなが気にかけて、手を加えていく必要があります。



将来像実現に向けた取組方針と取り組み例

「理念」や「目指す将来像」を実現するための取組方針を「戦略」として掲げ、その取組方針に基づく取り組み例を示します。取り組み例は、実施主体などの意見を踏まえて計画期間中においても都度、更新、追加し、より多くの主体が身近にできるところから取り組んでみようと思えるよう、積極的に広報していきます。

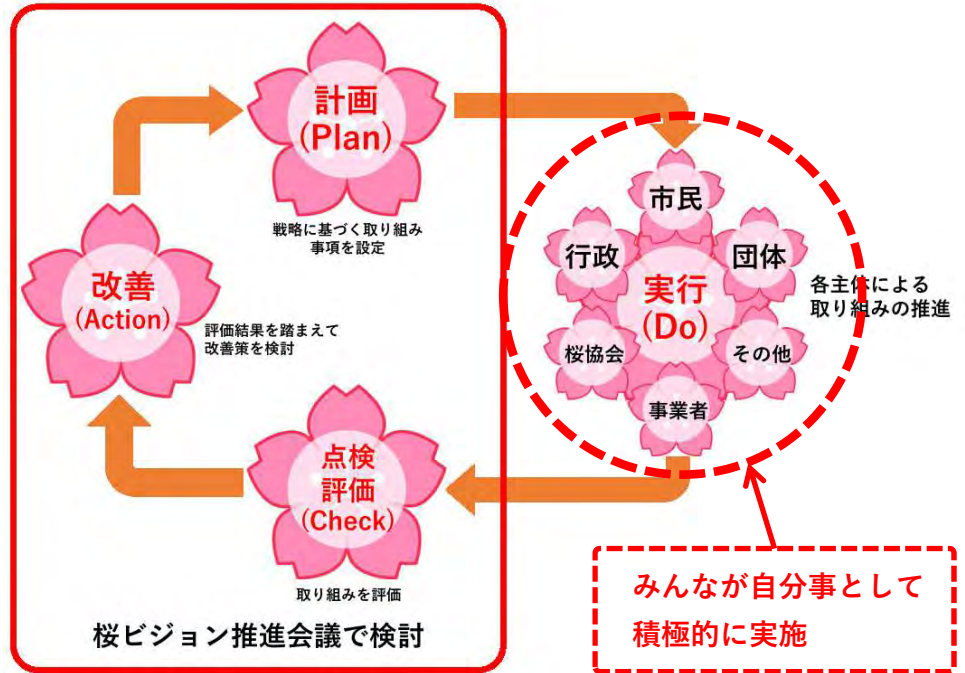


取り組み例を積極的に周知、推進

推進体制と進捗管理

サクラは管理者や所有者が多岐にわたるため、行政に限らず、自治会などの団体、市民、事業者など、各主体（みんな）が自分事として積極的にサクラの整備に取り組まれるよう推進していきます。

また、取り組みは「桜ビジョン推進会議」で毎年度検討し、より多くの主体（みんな）がサクラのために、できることから取り組んでいけるよう推進していきます。



さくらのまわりの、ひととなる「ささやま桜協会」

市木であるサクラは、多くの人々の保全活動により受け継がれてきました。中でも「ささやま桜協会」はサクラの保全活動を目的とした市内唯一の団体であり、本ビジョン推進の中核を担うことが期待されます。各主体（みんな）に桜協会への加入を呼びかけ、大きな組織により広範囲で効果的に活動できるよう推進していきます。

○「ささやま桜協会」の主な活動

- ・桜守による桜の育成・剪定等に関するアドバイス
- ・地域で桜の維持管理ができる人材を育てる桜守養成講座
- ・地域の桜を知る桜めぐり
- ・市内全域を対象とした桜の整備



桜守養成講座



桜めぐり

みんなで一緒に取り組みましょう！

丹波篠山市桜ビジョン

令和7年3月 丹波篠山市